



登米懷古館
TOYOMA KAIKOKAN

綾杉肌の美

登米懷古館企画展

もののふの魂

2025
9.13 (土)
▽
11.16 (日)

10月14日(火)は展示替えのため企画展示室を閉室します。

郷土の刀匠

刀 銘

於東武 奥州住藤原国包作之
天明四年三月日
日本美術刀剣保存協会宮城県支部会員蔵

脇指 銘 三品但馬守宗次

於大江岸作之 館蔵

企画展詳細はこちらから



観覧料金/大人400円 高校生300円 小・中学生200円
開館時間/9:00~16:30 お問い合わせ/0220-52-3578



もののふの魂

わたしたちが一般的に思い浮かべる、反りのある日本特有の形の刀剣が出現したのは、平安時代中期頃といわれています。長い歴史の中で武器として、または家の宝として遠い先祖から受け継がれてきた刀剣は、作刀当時の姿を現在にまで伝える貴重な歴史的資料であり、現在ではさらに美術品としても国内・海外ともに高い人気を誇っています。

本展では、展示を2章構成とし、それぞれ独立したテーマで刀剣を紹介します。

本展を通して、研ぎ澄まされた刀剣の美しさと、受け継がれる刀匠たちの技術をご堪能いただければ幸いです。



脇指 銘 雙龍子玉英直光(父子両作・刻印) 嘉永五壬子八月日

日本美術刀剣保存協会宮城県支部会員蔵

郷土の刀匠

江戸時代後期に、登米郡石森(現：登米市中田町)で活躍した刀工、雙龍子玉英作刀の刀剣を中心とした郷土刀を展示します。

綾杉肌

鍛錬によってあらわれる模様のことを「鍛え肌」と呼びます。鍛え肌の中でも独特な「綾杉肌」と呼ばれる鍛え肌は、月山鍛冶作刀の刀剣に顕著に見られます。

綾杉肌の美

鎌倉時代から室町時代にかけて活躍し、出羽国(現：山形県)月山を拠点とした刀工の一派である月山鍛冶作刀の刀剣を中心に展示します。



刀銘 月山

日本美術刀剣保存協会宮城県支部会員蔵

ギャラリートーク

1

日時:10月12日(日) 14時~14時30分

講師:四倉俊夫氏

(日本美術刀剣保存協会宮城県支部会員)

場所:登米懷古館土間ホール・企画展示室

2

日時:11月2日(日) 14時~14時30分

講師:佐藤一典氏

(日本美術刀剣保存協会宮城県支部会長)

場所:登米懷古館土間ホール・企画展示室

※いずれも入館料のお支払いが必要です。

※当館では刀剣の鑑定等は一切行いません。

鑑定等を目的とした刀剣類の持込みは固くお断りいたします。

